

審議会等名		川西市行政SR作戦審議会		
事務局 (担当課)		企画財政部 政策室 内線(2111)		
開催日時		平成16年 5月26日(水) 19時00分~20時42分		
開催場所		川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	岩見 和彦 吉村 勲 岩田 茂子 河村 隆一	橋本 行史 大塩 民生 小柳 教子 林 達哉	和田 聡子 秋田 納 川田 利彦 長橋 和義
	事務局	企画財政部長、政策室長、政策室SR作戦担当主幹、政策室副主幹、政策室主任		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・ <input type="checkbox"/> 不可・ <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1. 委員構成について 2. 副委員長の選任について 3. 平成16年度行政SR作戦審議会の開催予定について 4. 新行政SR大綱行動計画について 5. 中期財政収支計画及び平成15年度・16年度当初予算反映項目について 6. その他		
会議結果		開会 19時01分 1. 委員構成について 各委員自己紹介 2. 副委員長の選任について 和田 聡子委員が副委員長に選任された。 3. 平成16年度行政SR作戦審議会の開催予定について 今回は行政SR作戦を進めるにあたっての具体的な内容を定めた「新行政SR大綱行動計画」及び平成15年に向こう5年間の収支見通しを立てるべく策定した「中期財政収支計画」等の内容を説明し、次回は本年7月下旬に開催し平成15年度の実績を報告する。 4. 新行政SR大綱行動計画について 「新行政SR大綱行動計画」について説明 5. 中期財政収支計画及び平成15年度・16年度当初予算反映項目について 「中期財政収支計画」等配付資料について説明 6. その他 閉会 20時42分		

# 審 議 経 過

発言者 (時間)	発 言 内 容
会長 (19:01)	(開会あいさつ) 川西市行政SR作戦審議会の平成16年度第1回を開催します。
会長	(委員出欠及び傍聴状況の報告) 委員の出欠状況並びに傍聴者の状況を報告してください。
事務局	委員12名全員出席、傍聴者は現在2名です。
会長	(議題1 委員構成について) 平成14年12月の答申以降、今日まで1年以上ブランクがあり、その間交代されている委員もあることから自己紹介をお願いします。また事務局にもお願いします。
各委員及び事務局	(各自自己紹介)
会長	(議題2 副会長の選任について) 審議会の副会長については、中西俊夫さんをお願いしておりましたが、先般退任され、現在空席になっております。副会長の選任についてはどのようにしていきましようか。
委員	会長一任
会長	会長一任の声がありましたが、私の方から指名してよろしいでしょうか。
委員	異議なし
会長	全員異議なしということで、審議会の活性化にとりわけご尽力いただいている和田委員をお願いしたいと思います。
委員	異議なし。
委員	皆様のご指導よろしくお願いします。(副会長席に着席)
会長 (19:28)	(議題3 平成16年度行政SR作戦審議会の開催予定について) 本日を含めてこの審議会の今後の進め方並びにスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	平成16年度の開催予定としては、本日は行政SR作戦を進めるにあたっての具体的な内容を定めました「新行政SR大綱行動計画」及び平成15年に向こう5年間の収支見通しを立てるべく策定した「中期財政収支計画」等の内容を説明し、次回は本年7月下旬に開催し平成15年度の実績を報告するというように、2回開催したいと考えています。
会長	この審議会は川西市が行政SR大綱に基づき行っているかを継続して監視していくことを大きな責務としているので、次回の7月下旬に開催しチェックしていきたいと思えます。
会長	(議題4 新行政SR大綱行動計画について) 市では行政SR大綱の具体的なアクションプランとして「行動計画」を定めたと聞いていますので、その説明をお願いします。
事務局	(「川西市新行政SR大綱行動計画」に沿って説明)

## 審 議 経 過

発言者 (時間)	発 言 内 容
会長	(議題5 中期財政収支計画及び平成15年度・16年度当初予算反映項目について) 本来ならここで意見を賜るところですが、今の内容と次の議題が深く関係することから続けて説明を行いたいと思います。
事務局	(「中期財政収支計画」等配付資料に沿って説明)
会長 (20:12)	以上の説明について、質問・意見等ありますか。
委員	中期財政収支計画において普通交付税額が平成16年度から増えているのはなぜか。
事務局	市税収入が減じた部分の75%を積み上げているため、計算上は増えると見込んでいる。
委員	今後、国の改革状況によってはこれほど増えない可能性があると考えていますか。
事務局	この計画を策定した平成15年11月の後に国の三位一体の改革が発表されたために、改革の影響を受ける部分が反映されていない。今後この改革は継続すると思われるので、改革の内容を精査しながら、計画を毎年ローリングさせるなかで盛り込んでいきたい。
委員	市内で生活保護を受けている方の人数はいくらか。
事務局	平成16年3月末で約650世帯、1000人ほど受給しており、人口千人あたり6.5人となっております。
委員	いくらの支払いになっているか。
事務局	15年度決算見込みで16億5千万円、1人あたり年間165万円ほどの支給となっている。なお、その経費負担割合は国が3/4、地方が1/4となっており、地方負担のうちの県分を差し引いた本市の実質負担は約23%となっている。
委員	受給者への状況調査は行っているか。
事務局	受給希望者の自己申告に基づき、現地に訪問するなどして法に定められた受給資格の有無の審査を行うとともに、受給後についても家庭訪問などにより実態調査を行っている。また、法の趣旨である自立を促すために、受給者の状況に応じた就労指導や生活指導を行っている。
委員	今後、受給者数の動向はどうなるのか。
事務局	都市部においてはデフレ不況の影響、高齢化の影響を受けて増加する傾向にある。景気が上向いているとの報告もあるが、受給者の生活には影響が及んでおらず、本年度中は増加傾向を示すと考えている。なお、平成16年度からケースワーカーを1名増員し、さらなる受給の適正化に努めている。
委員	下水道料金改定による増収はどこに反映しているのか。
事務局	市は特別会計である下水道事業の赤字部分に対して、一般会計歳出の繰り出し金によって充てている。平成16年度と17年度の繰り出し金を比べると、平成17年度に減っているのは下水道料金を値上げし下水道事業の赤字部分が減ったために、一般会計からの繰り出しを減らすことができた。

## 審 議 経 過

発言者 (時間)	発 言 内 容
委員	公有地の売却は検討しているのか。
事務局	本年度に市組織内にSR作戦担当主幹を置くことで、SR作戦推進の責任領域を明確にするとともに、未利用地の売却を強力に推進していく。ただし、実施には少々の時間を要しそうだ。
委員	他事業体においては屋外広告物に課税しているところがあると聞いている。川西市においても支出削減のみではなく、新たな税収入の確保の方策を検討してもらいたい。
委員	今後更に財政状況が厳しくなれば、さらに投資的経費を削減するしかない。しかし、それにも限界がきていると思われる中で、これ以上切り込む余地はあるのか。
事務局	一般財源ベースで12～15億ほどの投資的経費を毎年見込んでおり、この中には平成18年に開催される国体など一時的な事業も含まれているが、何とかこの範囲の中で納めるべく、事業の取舍選択を行っていききたい。しかしながら投資的経費の削減には当然、限界があるため、経常的経費にも切り込んで行かなければならないと考えている。平成16年度予算編成では部に対し予算の枠配分を行うとともに、部長の権限において投資的経費や事業の見直しを行ったところである。これら様々な戦略を組み合わせることで、最悪のシナリオである赤字再建準用団体への転落を回避したい。
会長	各部長が投資的経費の問題を含めて責任を持って采配するということであったが、そのようなものを考える能力が各部長にあるか。
事務局	各部長が行った判断を更に大きな視野で判断するため、市の総合的戦略を考える政策・戦略会議に諮るなどして洗い直しを行っている。定着には少し時間がかかると思われるが、部長の経営感覚を伸ばしていきたい。
会長	支出削減のみを考えて、川西市が小さくまとまってしまうようでは寂しい。夢を埋め込んだ中で市民が将来を探っていけるようにしてもらいたい。
委員	起債制限はいくらか。
事務局	一般的に危険ラインは15%と言われており、川西市は既にこれを超えている。20%を超えると例えば贅沢な施設建設での市債発行は制限され、30%を超えると災害復旧など2次的なもの以外は制限される。
委員	中期財政収支計画のなかで平成20年に3億5600万円の赤字となっているが、計画段階で赤字で計上するのはおかしいと思うが。
事務局	毎年度行うローリングの中で、その見せ方を検討する。
委員	資産状況であるストックを示した貸借対照表も作成するべきであると思われるが、そのようなものは作成しているのか。
事務局	本市においては平成11年度から損益計算書及び貸借対照表を作成しており、毎年度決算時期に公開している。
委員	一番大きな問題は公債残高が大きいことと思われるが。

## 審 議 経 過

発言者 (時間)	発 言 内 容
事務局	貸借対照表の指標の一つに債務償還能力というのがあり、それは一般財源の中で義務的支出が固定されているもの以外の、いわゆる自由に使える金額を理論上公債費に充てた場合に何年で返済することができるかを示した数値である。本市の場合、若干だが回復傾向にある。
委員	今後、財政状況を好転させて行くには未利用地の処分が重要であり、具体的な道筋を立ててほしい。
会長	市民が行政SR作戦をどう思っているか。例えばテニスコートの使用料が1時間800円から1,200円に上がることが市民が行政を感じる皮膚感覚となる。なぜ、そのようにしないといけないのかは理解されていると思うが、市の財政状況や将来の問題を広報でもっと強力に丁寧に説明し、市民を説得し理解してもらわなければならない。それは行政の責務と考える。このSR作戦を成功させるには市民の合意・協力が必要である。
会長	(議題6 その他) 他に意見や、事務局何かありませんか。
会長 (20:42)	無いようでしたら、これにて終了とします。次回も参加いただけますようお願いいたします。